

第17期事業報告書

(2023年10月～2024年9月)

一般社団法人JEAN

海洋ごみ問題の解決にむけて以下の活動を行った。

1. 啓発活動

(1) 年間クリーンアップキャンペーンの展開

海洋などのごみの実態把握を兼ねた海洋ごみ問題の啓発活動の一環として、ごみの回収及び調査を目的に『ICG データカードを使った調べるクリーンアップ』を取り入れたキャンペーンを通年で展開し、参加の呼びかけを行なった。寄せられた実施予定はウェブサイトで紹介し、結果についてはデータベースに登録・蓄積するとともに、公開可能な情報についてはウェブサイトで公開した。

春(アースデイ)と秋(国際海岸クリーンアップ)はそれぞれ集中キャンペーンとして位置付ける。

① 2023年のキャンペーン(対象期間:10～12月)

会場数:126会場(うち、対象期間10月の国際海岸クリーンアップ71会場)

② 2024年のキャンペーン(対象期間:1～9月)

会場数:集計中

③ 神奈川県藤沢市鵜沼海岸の会場運営を行った。(2024年4月)

④ データベースの運用

継続して調査データをデータベースに登録

(2) 啓発用展示物の貸出し

海洋ごみ問題の現状等を知らせるため、5種類の展示用写真パネルを貸出した。

「みんなの問題海のごみ」A1 パネル型、A1 ロール型、A3 ラミネート型

「美しい海を子どもたちへー東日本大震災に起因した漂流物と海ごみ問題ー」A1 パネル型

「新たな海洋汚染マイクロプラスチック」A3 ラミネート型

貸出件数:13件 展示日数102日

老朽化で貸出停止中の漂着物のトランク・ミュージアム®は、リニューアルを検討した。

(3) 講演・研修等

9/24 沖縄県海岸漂着物の発生抑制対策ワーキンググループ出席

10月「海とヒトとの関係学」第6巻「海とジェンダー平等」にコラム執筆

10/14 海衆の学び2023トークセッションで講演

10/21 2023-24年度ロータリー奉仕デー「海岸美化プロジェクト」で講演とパネリストとして出席

10/25 カルビー(株)社会貢献セミナーでオンライン講演

10/28 鹿児島市脱プラチャレンジ(1)でビーチコーミングとクリーンアップ指導

10/30 令和 5 年度霧島市環境美化・河川環境保全推進員研修会で講演
11/5 香川県クリーンアップリーダー養成講座で講義とごみ調査指導
11/5 鹿児島市脱プラチャレンジ(2)で講演
11/26 一般社団法人アイサーチジャパンのイルカクジラジュニアクラブで講演
11/30 対馬市海岸漂着物対策推進協議会出席
12/5 法政大学人間環境学部ローカルスタディーズⅡでオンライン講義
12/14 令和 5 年度志高カレッジで講演
1/4 沖縄県海岸漂着物の発生抑制対策ワーキンググループ出席
1/31 対馬市海岸漂着物対策推進協議会出席
2/9 令和 5 年度東海学園大学ボランティア論で講義
2/29 サーキュラーパーク九州サミットで講演
3/2 沖縄県海ごみワークショップ 2024 オンライン出席
4/21 藤沢市鵜沼海岸でのクリーンアップ実施
5/24 かがわ里海サロンで講演
6/11 国土交通大学校 海岸研修で講義
6/13 全国川ごみネットワークオンラインセミナー出席
6/14 海洋教育サンセットトークでオンライン講演
7/10～12 日米韓海洋環境シンポジウムにモデレーターとして出席
9/11 全国川ごみネットワークオンラインセミナー出席
9/24 沖縄県海岸漂着物の発生抑制対策ワーキンググループ出席
9/24 海洋廃棄物国際会議(台北集思北科大会議センター)で講演

(4) 画像の貸出し

出版社等からの要望により、海洋ごみ問題に関する画像を、有料で貸出した。

(5) 資料の販売

以下の資料を継続して販売した。

「海辺のカルテ」、「海辺のカルテ 漂着物ワークブックこども用」

映像資料「ゴミ箱になった海」、「人工の海」

(6) 資料の配布

啓発用リーフレット、活動紹介リーフレットを必要に応じて配布した。

2. 調査研究

(1) 自主調査

『ICC データカードを使った調べるクリーンアップ』の推進

日本における海洋などのごみの実態を把握するために、通年で ICC データカードを使った調査への参加を呼びかけ、寄せられた結果はデータベースに登録、基礎データとして継続的に蓄積した。

(2) 他調査への協力

今期は、関係機関等からの調査研究の協力要請はなかった。

3. 国際協力

(1) 国際活動への参加と知見共有

日本における「International Coastal Cleanup(ICC)／日本語名：国際海岸クリーンアップ」の主催ナショナルコーディネーターとして、9月と10月に世界100以上の国と地域で一斉に行われるInternational Coastal Cleanup(ICC)への日本国内での参加呼びかけを行った。参加団体から寄せられた結果は、日本のICCデータとしてとりまとめ、1月に主宰者であるオーシャン・コンサーバンシー(アメリカ)に共有した。

4. 情報の収集及び発信

(1) 活動及び海洋ごみ問題について広く知ってもらうため、ウェブサイトを通じた更新し、クリーンアップキャンペーンの予定と実施結果などを発信した。

(2) 団体の公式フェイスブックページと、海洋ごみ関連情報を中心としたフェイスブックページ「海ごみプラットフォームJAPAN(MalipJAPAN)」を運営した。

(3) 機関紙「美しい海をこどもたちへ」の発行
今期は休刊とした。

(4) 海ごみサミットの開催
今期は開催地の募集を行わなかった。

(5) 海ごみプラットフォーム・JAPAN の開催
今期の開催は見送った。

(6) マスメディア等からの取材・照会に対応

(7) その他
行政、企業、教育機関、各種団体、個人との情報交換に対応した。

5. 政策への提案

海洋ごみ問題への理解推進を図るため、今後のプラスチックに係る資源循環の促進等について市民団体のネットワークを通じ意見表明等を行った。

6. その他

(1) 専門会、委員等

以下の会議等に参加し、提案等を行った。

- ・公益社団法人食品容器環境美化協会主催 環境美化教育優良校等表彰審査委員会
- ・沖縄県海岸漂着物対策推進協議会 委員
- ・同上 ワーキンググループ 構成員
- ・長崎県対馬市海岸漂着物対策推進協議会 委員
- ・全国川ごみネットワーク 理事

(2) 受託事業、助成活動等

今期の実施はなかった。

(3) 他団体との連携・協力

「全国川ごみネットワーク」に参画し、河川流域と一体となった普及啓発活動に取り組み、「川ごみサミット」開催について連携、協力した。

(4) 活動資金の調達

(5) 各種対応

各方面から寄せられた問い合わせや、クリーンアップへの参加相談に対応した。

以上